

1991年度／平成3年度（平成3年4月～平成4年3月）



役 員

部長：田村 茂
師範：岡野 功、清水 直臣、安藤 勝英
総監督：成毛 秀臣
監督：植村健次郎
主将：土屋 剛
主務：米沢 博行
副将：三島 一樹、渡辺 一博
幹事：竹村 賢一、関口 健一
学連委員：酒井 茂之
4年生：武田 昇、加賀美行彦、林 政一郎、
岸野 公勇、森 有紀（女子マネジャー）
体育会常任委員：宇田 博信、高柳 雅矢
副務：折井 陽太、本多 諭
新人監督：高柳 雅矢
日吉高コーチ：高柳 依正
志木高コーチ：唐木 敏行
普通部コーチ：酒井 茂之
中等部コーチ：友田 雄輔
合宿所主務：竹村 賢一
合宿所副務：清水 健、加納 幸喜

合宿所の思い出

土屋 剛

大学を卒業して10年、振り返ると愉快・豪快な柔道部生活が鮮明によみがえってくる。恥ずかしながら早慶戦をはじめ、主だった大会でこれといった戦績を残すことはできなかったため、個人的に試合の思い出よりも、我が同期10名と寝食をともにした4年間の合宿所生活の方になるのだが。

大学受験組の私が合宿所に初めて足を踏み入れたのは高校2年時の冬、体育会本部で実施の「勉強合宿」に参加した時であった。日吉駅から見知らぬ町並みを歩いて約15分、目に入ってきたものは、周りの景観とは明らかに異なりうっそうと生い茂る草木、歴史を感じさせる黒い木造建築物、雑然と屋外におかれた廃棄物等々、およそ田舎から出てきた高校生が頭に浮かべる慶應のイメージとはかけ離れていた。丁度、活動がオフの時期で、先輩方がほとんど自宅に戻っていたため、生活感のない合宿所内部を目の当たりにした時、ここで生活するのかと思うと正直不安になったほどであった。しかしながら、無事大学入試をパスし、慶應柔道部の一員として合宿所に入所して実際に暮らしてしまうと、その居心地の良さから、同期からあきれられるほど合宿所に根付いてしまうから不思議なものである。

合宿所生活で思い出すことは、飲酒がらみの出来事が大半である。

消灯後も不夜城として名高い某号室で、入れ替わり立ち代り酒豪の先輩方とお相手をした下級生時の夜。酒が切れれば各部屋長のもとへ手持ちの酒を提供いただけるよう恐る恐るお願いしたり、つまみを調達するよう言われれば、食堂・冷蔵庫・厨房の隅にある原型がよくわからないシロモノを手当たり次第に炒めたり、インスタントラーメンの具に庭の雑草を炒めて放り込んだりと、当時は先輩方に説明できないものを作っていた。もっともそういうモノほど先輩方はあまり召し上がらず、下級生に回ってきててしまうのだが。

また、同期でもよく飲んだ。稽古後に同期で飲み、勢いがついてしまい、下級生ながら門限間近に合宿所に駆け込むことも少なくなかった。ある日、飲みすぎてしまった同期が、まずいことに翌朝のトレーニング時にも明らかに酒が抜け切っていない様子。普段はランニングでトップ争いを演じる者たちが最後尾をなんとか走っていくが、いつまでもたってもゴール地点の合宿所に戻ってこない。心配して探しにいくと、コース途中で行き倒れている有様。このようなこともあります、毎回トレーニングを効果的に行なっていくため、自主的に節制し翌朝に酒を持ち越さない「泥酔禁止」令が発せられることになる。しかし懲りもしない我が同期は、またもや門限ギリギリに駆け込み、翌朝のトレーニングでもヘロヘロ状態。予想どおり泥酔禁止を破る第一号は我が代からとなってしまった。

年次が上がっていっても合宿所での楽しい出来事はあとを絶えず、個性ある我が同期各人が道場の畠の上では繰り出すことのできない荒業を合宿所で繰り広げていった4年間であった。

我が代は弱く、先輩方に頭が上がらなかつたが、実直に稽古を重ねる一方、合宿所をベースに楽しく伸びやかに活動していくことができたことは幸せであった。学生時代を柔道部で過ごすことで得られる充実感といったものを、今後も学生達が掴み取ってくれたらと思う。

試合記録

■第40回 東京学生柔道優勝大会 平成3年6月2日 日本武道館

1回戦	本 勢	7	-	0	明星大学
	唐木 敏行 2年	○	払腰		黒川聰司
	秋山 康元 1年	○	大内刈り		秋山弘之
	土屋 剛 4年	○	合せ技		清野修
	加納 幸喜 2年	○	内股		小沢秀一
	三島 一樹 4年	○	横四方固め		三輪直樹
	竹村 賢一 4年	○	送り襟絞め		鈴木恵樹
	渡辺 一博 4年	○	袖釣込み腰		加藤武
2回戦	本 勢	1	-	5	国士館大学
	土屋 �剛 4年		横四方固め	○	南保徳双
	高柳 依正 2年		引分け		安倍征喜
	加納 幸喜 2年		合せ技	○	中尾成志
	唐木 敏行 2年	○	合せ技		河田貴
	渡辺 一博 4年		払腰	○	石堂勇人
	三島 一樹 4年		内股	○	弘島功一朗
	竹村 賢一 4年		払腰	○	鎌田祐年

■第40回 日本学生柔道連盟統一記念大会 平成3年6月29日 日本武道館

1回戦	本 勢	7	-	0	埼玉工業大学
2回戦	本 勢	1	-	4	徳山大学

■第33回 東京学生柔道二部優勝大会 平成3年10月13日 講道館

1回戦	本 勢	7	-	0	都立大学	
	加納 幸喜 2年	○	上四方固め		稻 田	
	唐木 敏行 2年	○	大外刈り		甲 斐	
	三島 一樹 4年	○	上四方固め		池 田	
	高柳 雅矢 3年	⊕	背負投げ		山 内	
	林 政一郎 4年	○	腕拉ぎ十字固め		福 地	
	宇田 博信 4年	○	横四方固め		伊早坂	
	竹村 賢一 4年	○	袈裟固め		吉 田	
2回戦	本 勢	6	-	0	東京大学	
	唐木 敏行 2年	○	袈裟固め		野 瀬	
	林 政一郎 4年		引分け		柴 山	
	渡辺 一博 4年	○	背負投げ		後 藤	
	加納 幸喜 2年	○	横四方固め		木 村	
	土屋 剛 4年	○	横四方固め		中 川	
	三島 一樹 4年	○	谷落し		真 弓	
	竹村 賢一 4年	⊕	返し技		青 野	
3回戦	本 勢	③	-	3	創価大学	内容勝ち
	唐木 敏行 2年	○	袈裟固め		林	
	高柳 雅矢 3年		払腰	○	佐 藤	
	林 政一郎 4年	○	内股すかし		沼 崎	
	加納 幸喜 2年	○	横四方固め		黒 崎	
	三島 一樹 4年		注意	⊕	常 田	
	渡辺 一博 4年		引分け		上 地	
	竹村 賢一 4年		注意	⊕	菊 池	
準決勝	本 勢	1	-	4	大正大学	
	唐木 敏行 2年		引分け		井 口	
	宇田 博信 4年		小内刈り	○	寺 田	
	林 政一郎 4年		上四方固め	○	熊 谷	

加納 幸喜 2年	⊖	内股	○	市 川
三島 一樹 4年		横四方固め	○	雄 山
渡辺 一博 4年		引分け		渡 辺
竹村 賢一 4年			○	小 沢

■第43回 早慶対抗柔道戦 平成3年11月17日 日吉記念館

本 勢			○	早稲田大学 4人残し 優秀選手：渡辺一博、高柳雅矢、加納幸喜
関口 健一 4年		足払い	⊖	関 口
宇田 博信 4年		袖釣込み腰	⊖	関 口
加賀美行彦 4年		背負投げ	○	関 口
徳永 弘規 1年		引分け		関 口
友田 雄輔 2年		背負投げ	⊖	添 畑
清水 健 2年		内股	○	添 畑
本多 諭 2年		体落し	○	添 畑
秋山 康元 1年		引分け		添 畑
宮本 猛 1年		内股	○	白 井
高柳 依正 2年	⊖	すくい投げ		白 井
高柳 依正 2年	○			御 庄
高柳 依正 2年		内股	○	奈 良
竹村 賢一 4年		背負投げ	○	奈 良
渡辺 一博 4年	○	一本背負い		奈 良
渡辺 一博 4年	○			木 賀
渡辺 一博 4年		背負投げ	⊖	藤 賀
林 政一郎 4年		合せ技	○	藤 賀
岸野 公勇 4年				藤 賀
加納 幸喜 2年	○			藤 浅
加納 幸喜 2年	○			野 川
加納 幸喜 2年	○			石 川
加納 幸喜 2年	○	内股		古谷野
加納 幸喜 2年		引分け		寺 師
米沢 博行 4年		引分け		定 松
三島 一樹 4年		内股	○	鈴木 (智)
唐木 敏行 2年	○	内股		鈴木 (智)
唐木 敏行 2年		内股	○	大 石
土屋 剛 4年		引分け		大 石
高柳 雅矢 3年	○	背負投げ		渡 辺
高柳 雅矢 3年	⊖	小内刈り		今 井
高柳 雅矢 3年		内股	○	佐 藤
				三 竹
				澤 本
				鈴木 (新)

ありがとう綱町道場

石川忠雄塾長

綱町道場に最後の別れを告げる『明治から平成までありがとう綱町道場』の集いが7月7日、晴天の下、盛大に行われた。

暑中稽古に引き続き道場で開かれた第1部は石川忠雄塾長、阪埜光男前部長、田村現部長も出席され、幼稚舎生による紅白試合、鏑木文隆師範、友田義輔先輩、清水先輩の掛け勝負（友田親子の対戦もあり）などで盛り上がった。道場内には福沢諭吉先生と柔道部員の記念写真など、明治時代からの貴重な写真が展示され、剣道場では古い名札を陳列、各人に返却した。

記念撮影後は会場を大学内の学食に移し、応援指導部のプラスバンドが演奏する中、現役部員が調理した焼き鳥や焼きそばをさかに、約300人の出席者が昔話に花を咲かせ、最後は若き血などの応援歌を合唱して、綱町道場への別れを惜しんだ。

皆さんもご存じのように、この度、慶應義塾体育会創立100年の総会事業ということで、この綱町に柔道場と剣道場と弓の道場ができることになりました。その結果として、この道場をとり壊さなければならない、ということになったわけです。

先程、石渡副会長が言われたように、“ありがとう綱町道場”と、私はこの気持ちがたいへんよくわかるような気がいたします。

考えてみると、明治37年に、この道場が多くの人々の協力によってできて、今日まで実にたくさんの名選手を送り出し、又、それ以上に大切なことは、実に多くの部員諸君がここでその青春を燃焼させて、心身を鍛錬して、そして世の中へ出ていかれた。それを思うと、この道場の果たした役割というものは真に大きなものがあるような気がいたします。

本当ならば「道場を保存する」ということも考えなければならぬのでありますけれども、又、私が柔道部長の時に先輩にお聞きしたところによると、この道場は独特の風格をもった道場であるそうであります。

そういうことで、できることなら保存をしたいという気持ちもありましたけれども、それも不可能ということがわかりました。やむをえず、これを取り壊すということになりました。残念でありますけれども、どうか副会長の言われたように、道場を瞼の裏に焼きつけていただきたいと思います。勿論、写真は充分にとって、柔道部の中に保存をしてほしいものだと、私は思っております。

いずれにせよ、この道場が取り壊されて、新しい道場ができるて、又、それがこれから来る人達の鍛錬の場として活かされ、且、長い歴史をかけて多くの人々を世に送り出していく手段となってもらうことを、私は願っております。

その正に、この道場で鍛錬された皆さんには、真に感慨深いものがあると思はりますけれども、御了承をいただきたいと、そう思います。

今日は出席をできて、たいへん嬉しく思います。ありがとうございました。

(この項は当日のご挨拶をテープに収録し、原稿におこしたものです)

綱町道場と苦楽いろいろ 昭和33年卒 山際 正明

今は亡き、畏友頭山統一氏に中等部に入學し、級が一緒になったことがきっかけで、至剛館に通いだしたのが柔道との縁の始まり、その後、柔道が正式に認められ綱町道場でお世話になって今日迄40余年、日吉蝮谷道場の想い出より、永年、稽古を始め、寒稽古、暑中稽古等でお世話になった綱町道場の方が、数倍も想い出深いものがあります。今と違い私達の学生時代は綱町道場が即、合宿所で道場の畳の上に全員が寝泊りしたのですから綱町道場そのものが生活の場でした。高校生時代に経験した「活殺法」のおそろしかったこと。大学1年の頃は何しろ1年生は早く起きなければならないので早く目を覚まし布団の中で息をひそめて起きる用意をしてたこと。又、或る合宿時のこと、故清水正一師範がお帰りになる際、全員が挨拶をしなかった罰として道場で1時間の正座をさせられたこと。

一方、良き想い出としては、私が提案した暑中稽古に一部部員が賛同してくれて、成功裡に終り、今もって暑中稽古が続いていること。又、最も楽しい想い出は私が監督時代に18年振りに宿敵早稲田大学に勝ち、「薦被り」を開けて祝杯を上げ、学生の手で胴上げをして貴い宙に舞ったことが今でも綱町道場の想い出として鮮明に残っております。傑作な想い出としては或る寒稽古の時、私達が風呂に入つたら、学生が洗面器を蛇口に当てて一生懸命水を貯めているのです。何してんだと言うと道場が火事ですとこたえるのです。馬鹿早く風呂の湯を汲んでけと怒鳴りつけました。あわてると、お湯では火が消えないと言う錯覚におちいるのでしょうか。幸い小火で済んだから良かったものの、大ごとなっていましたら大変でした。先日の寒稽古汁粉会の時、お二人の先輩がそのことで感謝状を授与されていたので想い出しました。本当に永い間お世話になりました。有難うございました。

“ありがとう”の気持ちを込めて 昭和41年卒 森田 総典 昭和41年卒 滝沢 緑郎

『さらば慶應柔道の殿堂』の文字が、6月27日付読売新聞（都内版）に躍った。いよいよ三田綱町道場ともお別れかという感慨と“集い”的準備は万全という目で紙面を追った。

昨年末、三田綱町道場が取り壊されるので何かをやって欲しいと渡辺委員長から依頼があり、私たちもお世話になつた道場に対する感謝の気持ちでお引き受けした。1月の『サヨナラ綱町道場辛申寒稽古』の成功に気を良くして、2月から“集い”的準備に入った。

あれこれ検討を重ねるうち、道場での記念式典と第2部として全員で楽しく過ごしてもらうために、模擬店や福引き、写真展をやろうということになった。それに記念品としてテレホンカードや絵はがきを作ろうと話はひろがっていく、ある先輩から道場正面に掲げられている額のミニチュア版があつたらいいとのアイデアを伺い、早速採用させていただいた。

構想は次々とひろがり、大部分はそれぞれのパートに専門家に参画してもらい、準備は順調に進んだ。しかし一番の難問が模擬店。『ありがとう』の気持ちを込めて学生たちの手作りを考えていたが、何しろ先輩にも模擬店のプロはない。それを補うため、ある時はそばを用意して学生たちに合宿所で練習させたり、ハヤシライスや焼鳥のために三宅先輩の満天星に学生を連れていて講義を受けたり汗と涙の連続であった。

7月7日 第1部の記念式典は、全員で黙祷し、塾歌斎唱、石渡副会長の挨拶と続いた。来賓として石川忠雄塾長、田村茂柔道部長、阪埜光男体育会理事からご挨拶をいただき、式典に花を添えられた。

午後からの第2部のパーティでは辻岡昭常理事に乾杯の音頭を取っていただき、全員が学生の手作りに舌づみを打つのを聞くころにやっと私たち委員も“やって良かった”という気持ちになれた。

第2部の会場は、当初道場前のテント張りを予定していたが、塾当局のご配慮で学生食道をお借り出来たのは、あの日の炎天下から考えれば大変幸運でした。

最後に、準備に参画してくれた堀信孝、森得之輔、奥住神州男、内海勝彦、渡辺弘二、森秀雄、熊谷喜隆夫妻、小林俊介、尾崎透君らやいろいろご協力いただいた諸先輩にあらためて御礼申し上げたい。そしてこういう機会を与えてくれた三田綱町道場よ、ありがとう。

式 次 第

第一部 式 典

- 一、黙 祷
- 一、塾歌斎唱
- 一、副会長挨拶
- 一、来賓ご挨拶
 - 石川忠雄塾長
 - 田村 茂柔道部長
 - 阪埜光男体育会理事
- 一、記念撮影

第二部 サヨナラパーティ

- 一、乾 杯 辻岡昭常理事
- 一、懇 談
- 一、福 引
- 一、応援歌合唱
- 一、挨 拶 渡辺明治委員長

柔友会報60号より

さらば「慶應柔道の殿堂」

三田綱町道場

9月に取り壊し 支えた、大正黄金期
87年 1万人が汗

平成3年6月27日(木) 読売新聞都民版に掲載

笠原慶太郎会長訃報

昭和19年卒 石渡 英二

昭和53年3月から柔友会の会長を務めておられた笠原慶太郎先輩が平成3年6月17日午後5時36分、脳内出血のため、東京都新宿区の病院で永眠されました。享年73歳。笠原先輩は昭和15年経済学部を卒業。

亡くなるまで同榮信用金庫会長、全国信用金庫会長を務めていらっしゃいました。密葬は20日正午から港区芝公園の増上寺安國殿で行われ、7月23日にやはり増上寺で同榮信用金庫と全国信用金庫協会の合同葬がしめやかに行われました。謹んでお悔やみを申し上げるとともに、生前の柔道部ならびに柔友会に対する多大なご尽力に改めて感謝の意を表したいと思います。

笠原さんの思い出

印象に残っているのは、戦時中見習士官の服装で綱町道場へ来られた姿と、昭和36年頃、ハワイ勤務中の小生の所へ、渡米の途次とあって、ひょっこり立寄られた姿などだが、童顔やおだやかな話振りなどからは、ちょっと想像も出来ない程のタフさを秘めて居られたようだ。

近年、信用金庫関係の大ボスの位置に就かれたのも、この二つの要素が然らしめたものなのだろう。

子供の頃からのくせか、慣れない所為か、どうしても「笠原さん…」とは言いにくく、つい「マメちゃん…」と出そうで困ったものだった。

綱町道場の改造と言う大仕事が略々目度がついた時とは言え、実際に新しい建物を目にする出来ないのはさぞ残念なことだろうと思うが、案外「そうかなあ……なんてことないんぢゃない……」などと、例の調子の返事が戻ってくるかも知れない。

改めて、御冥福をお祈りする次第

柔友会報60号より

石川忠雄先生、学柔連会長に

三月三十日の日本学生柔道連盟の発表によると、石川忠雄先生（元部長、現塾長）が、新会長に選出されました。

平成4年(1992年)3月31日(火曜日)
学柔運会長に石川慶大塾長
日本学生柔道連盟は三十日、新会長に石川忠雄慶大塾長が就任したと発表し
た。任期(2年)満了に伴う役員改選で、金丸信前会長は名譽会長となる。